令和2(2020)年度　江戸川区立北小岩小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	○心豊かでやさしい子　○よく考え表現する子　○体をきたえ元気な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○当たり前を大切し、常に改善を目指す学校づくりー「挨拶・笑顔・感謝」の更なる充実ー ○「挨拶・笑顔・感謝」を合言葉に、友達との関わりを大切にし、主体的に取り組む子 ○児童・保護者・地域の信頼に応える教師　○教育のプロとして授業で勝負する教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞　学力向上･･･全国学力調査において、国語科、算数科ともに東京都、全国の正答率を上回った。都学力調査において、国語科、算数科、社会科は東京都の正答率を上回ったが、理科は東京都の正答率を下回った。 指導力向上･･･生活科、総合的な学習の時間、読書科の校内研究を実施し、年間指導計画と評価規準の再編、授業力の向上を実現できた。 ＜課題＞　体力向上…昨年度と比較し、都や全国の体力合計点を上回る学年が減少した。体育科の授業改善、全校運動遊びの見直しを図る必要がある。 江戸川区教育委員会指導室が掲げる重点事業に対しての理解を深め、一層の充実を目指すとともに、校務改善を通して働き方改革を図っていく必要がある。 家庭・地域とのより一層の連携。家庭・地域への情報発信。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	人権教育の充実	「なかよし班活動」「人権の花運動」への取組による畏敬の念や思いやりの心の育成	なかよし班活動…月1回以上 ロングなかよし班活動…2学期以降月1回 人権の花の栽培…年間継続	児童アンケート 肯定的な回答80%以上	C	B	○校内学習作品展において、充実したペア学年での制作、鑑賞活動ができた。 ○上級生が下級生に優しく接する態度が身に付いた。 ●コロナ禍で可能な活動の計画・実行。	B	・地区班での集団下校では上級生がリーダーシップを発揮していた。 ・次年度予定されている登校班、人権の花活動に期待している。	なかよし班を工夫して活用し、さらに思いやりの心の育成に努める。
	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携プログラムの見直し…年2回 小中連携型生活指導指針「N･W･F」の作成・見直し…年2回	児童アンケート 肯定的な回答90%以上	C	C	○基本習慣のスタンダードを生活指導の基準として定着した。 ●各教科の連携教育プログラムを見直す。 ●コロナ禍で可能な活動の計画・実行。	C	・「小中連携構想」は、3つの小・中学校、地域も共通理解しているか検証してほしい。 ・初任研等で小中の教員が校種の違いを経験できたのはよかった。	コロナ禍の中、まずは自校で連携プログラムを実施する。
	俳句指導の充実	俳句指導による思考力・表現力の向上	俳句の作成…年4回以上 句会…年2回以上 俳句コーナーの更新…年4回以上	児童アンケート 肯定的な回答80%以上	A	A	○本校の特色ある取組として通年にわたり計画的に指導できた。 ●掲示方法の工夫や統一。	A	・本校の伝統でもあるので、俳句集を楽しみにしている。	通年を意識して、学年に応じた俳句指導の充実を図る。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	ICTを活用した授業回数…週1回以上	児童アンケート 肯定的な回答90%以上	A	B	○ICT機器は週1回以上活用できた。 ●GIGAスクール構想に対応したICT機器の活用事例等の研修を充実	B	・デジタル教科書は各教科活用されている。 ・ICT機器、児童は抵抗ないのでしっかり活用してほしい。	GIGAスクール構想で、どの児童も学習ツールとしてICTを活用できるようにさせる。
	特別支援教育の更なる充実	「特別支援教育校内研修会」等の実施による教員の指導力の向上	管理職、コーディネーター、特別支援指導担当教員 による特別支援教育研修…学期に2回以上	「Q-U」学級満足度 要支援群出現率10%未満	A	B	○研修により個々の理解が深まった。 ○Q－Uを生かし、学級内の要支援の児童に組織的な指導ができた。	B	・学級担任だけでなく、特別支援巡回教員とも、とても話しやすいという声を聞いている。	教員が特別支援教育の視点をさらに身に付け、児童理解の充実を図る。
	校内研究会の充実	新学習指導要領に基づいた体育科の授業改善、教員の授業力の向上	授業研究会…年4回 相互授業観察…一人1回以上	児童アンケート 肯定的な回答90%以上	A	A	○主幹・主任が授業を積極的に公開するなど、若手育成のOJTを計画的に実施した。 ●授業研究会の協議の活発化。	A	・コロナ禍の中で、運動量の減少が心配されたが、体育科の授業の中でも指導法を工夫していることが分かった。	教育課題実践推進校として、体育科の充実した研究を積み、児童の姿で成果を発表する。
	若手研修会の充実	主幹教諭・主任教諭から若手教員への研修会の実施による学習指導・生活指導力の向上	授業研究会…一人月1回以上	東京ベーシックドリル 正答率　80%以上	B	B	○主幹・主任の授業公開、生活指導、保護者対応等の研修を計画的に実施した。 ●若手の授業公開の機会の充実。	B	・すべての学年、クラスで発達段階に応じた充実した学習指導や生活指導が行われるようさらに指導力を付けてほしい。	若手が主幹・主任教諭から授業を観てもらう機会を設け、指導力向上を確実にする。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	補習の実施や東京ベーシックドリルの活用によるきめ細やかな指導の充実と授業力の向上	校内教員による補習教室…年25回以上 外部委託による補習教室…年120回 東京ベーシックドリル診断シート…年3回	東京ベーシックドリル 正答率　80%以上	A	B	○計画的に補習教室や診断テストを実施した。 ○補習により、底辺層の一定の成果が見られた。 ●算数科以外の課題のある児童への対応の検討、実践。	B	・算数は、校内補習と学研補習が共に活用されて良い。基礎学力の定着を期待します。	学研補習は継続し、算数以外の教科は補習課題の内容を工夫し基礎学力の定着を目指す。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実、校内教員による授業研修会の充実	探究的な学習…年2回以上 学校図書館を活用する授業…週1回以上 授業研修会…年2回以上	児童アンケート 肯定的な回答80%以上	B	B	○学校図書館を整備し、活用する学習機会が増えた ○年間計画に沿って、系統的な指導が行われた。 ●読書科の指導方法のさらなる充実。	B	・学校応援団でコロナ禍の中、参加人数を制限するなど工夫して図書館整備の活動を継続した。	次年度は、図書館司書を活用し、図書整備や調べ学習について、教員のスキルアップを図る。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	運動遊びの実施…年25回以上 体育授業の改善…運動時間＋5分	体力テスト体力合計点 全学年で東京都を上回る	C	C	○コロナ禍での外遊びの方法を工夫して提示し、運動の機会を保証することができた。 ●たてわり班での運動遊びを計画、実施。	B	・体力テストの合計点が東京都を上回っていることは、授業や休み時間の中での工夫があるから。	3密を避けることは徹底しつつ、運動や遊び方の工夫により児童の運動意欲の向上を図る。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」の3つの視点を踏まえた取組の充実	オリ・パラコーナー更新…学期2回以上 オリ・パラ朝会…月1回	児童アンケート 肯定的な回答80%以上	C	C	○オリ・パラ朝会の内容を精選し、パラリンピアン講演の充実を図った。 ●オリパラ・コーナーを継続的な更新。	C	・オリ・パラ朝会で、パラリンピアンや日本の伝統についても触れられておりとても良い。オリパラコーナーもさらに充実してほし	レガシーとして展開できたボランティアマインド、共生社会の形成を引き続き充実させる。
	外国語教育の推進	ALTの有効活用による「生きた英語」に触れる機会の充実とコミュニケーション力の向上	ALTと児童との会話…毎時間1回以上 実践推進校による授業研究への参加…年2回 クラスルームイングリッシュの掲示・更新…学期1回以上	児童アンケート 肯定的な回答80%以上	B	C	○ALTや児童相互でのコミュニケーションの基盤ができた。 ●コロナ禍でのチャンツ、アクティビティの方法等の研修の充実。	C	・ALTが途中で変わったりしたがコミュニケーションの基盤をしっかり築けて良かった。	担任が指導力を付けてきたので、クラスルームイングリッシュのさらなる充実を目指す。
相談体制健全育成の充実	健全育成の充実	児童の生活習慣や情報モラル意識の向上	いじめや生活習慣、情報モラルに関する授業回数…学期1回以上	児童アンケート 肯定的な回答80%以上 「Q-U」学級満足度 要支援群出現率　10%未満	B	B	○ふれあい月間で全クラス実施した。 ●保護者も巻き込んだ情報モラル教育、講演会の充実	B	・毎週金曜日の生活指導夕会で、きめ細かい情報共有がされており、いじめ等の未然防止に役立っている。	情報モラル教育に一層重点を置いて、児童の健全育成を目指す。